



競争あそび

附屬幼稚園 村上露子

時には、この子供もこの子供もみんなで、體一杯の力を思ひ切り出して遊ばせ度いものも存じます。

勿論、活動性に富んだ子供は、お互ひ同士で次々に遊びを發展させ、ブランコに、お砂遊びに、兵隊ごっこに、汗だくくになつて居りますし、又大工仕事等を致しまして、鋸を使つたり、釘を打つたり、力一杯出してする事が出来ませんが、其れ等のお仲間に入れない子の事を考へなければなりません。

團體遊戯は、其の點、この子供も仲間に入り、同じだけの運動をする事になります。然し大きい組になりますと、ミかく男の子は、從來の唱歌遊戯に飽き足らず、「遊戯なんていやだ」。ミいゝ加減にいやくながらにしたり、又力

があまつてやたらに騒いだり、ふざけたり致します。

誰れもが、もつミ喜んでするもの、面白さにつり込まれて一生懸命にするもの、そして運動量の多いものがあればミ考へて見ました。

それには、唱歌遊戯の外に、この子供にも興味の多いゲーム(ミ申しますか、競争あそび、ミ申しますか)を取り入れたら、随分喜ばれる事が存じます。

實際に、此頃お遊戯の間に、ちよいとあそびを入れて見ますと、お遊戯なんて嫌ひだ云つて居る子供まで「又明日もしてね」。ミ申します。楽しみに致してゐる様で御座います。御参考迄に、一つ二つを御紹介申し上げます。

ボートレース



ボートレース

體育的に申しましたが、舟を漕ぐ動作は、全身の筋肉が使はれて、非常にいゝ運動になるこの事で御座います。之はお互に競争意識も手傳ひまして、随分真剣になつて致します。大變に喜んで致しますものゝ一つで御座います。

ボートレースの選手

全體の子供を四組位に分けまして、六、七人位を一組に致します。それ々の組では一人舵取りを定め、皆の方を向いて坐ります。(ほんさうのボートに乗つた様な形を作つて坐る。)選手は皆力を合せ、他の組に負けない様に、動作をそろへて一生懸命に漕ぐのです。

審判官

子供の中から一人或は二人位出して、審判官になつてもらひます。これは、この組が一番皆が動作をそろへて一生懸命に漕いだかを見て、舟の一着二着を定めます。(先生がしてもよい。)ミかく男の勢力のある子供がなりたがりますが、適當にかへる方がいゝと思ひます。なかゝ名審判官があつて、色々選手等に、す

ぢが曲つてゐるさか、わき見をしちやいかんさか、もつこ一生懸命に漕げさか注意致して居ります。

動作について申し上げます。

○用意—審判官の用意を云ふ合圖で選手はオールを握る。舵取りは繩をもつ。

○ドン—笛を吹いても、口で云つてもよい。

選手—^{イチニイ、サシシイ、イチニツ、サシ}一二、三四、一二、三、ミピアノに合せて掛聲を掛けながら、

○一、^{イチニイ}二で始め前に體をまげて漕ぎ出す事。(これはよく約束して置く。)舵取りは其の反對に。(但し漕がないで繩を握つてゐるだけ。)皆出来るだけ前後に大きくまげる様に。

○三四—後に漕ぐ。

○一二—選手は前に、^{イチニツ}

舵取りは兩手を口に當て、メガホンの代りにする。

○三—選手は兩手をすつこ後にやつて、丁度オールが水を切つた様子を表はす。

舵取りは兩手を口に當てたまふ。

以下一曲済むまで今までの動作を同じ事を繰り返す。

審判官に依つて、一着二着がまきまき、勝つた組は全體少し前に進む事に致します。そして決勝の線をきめて、その線に入つた組は優勝した事にして、休んで見て居ります。一回二回を重ねるにつれて、負けるまいと顔を眞赤にしながら、掛聲も勇やしく、ぐんぐんピッチをあげます。それでピアノもだんぐテンポを早めて弾きます。

之はも、複雑な振りが付いて居りましたのを、こんな風に、簡単に遊べる様に致して見ましたもので御座います。

兎と龜の競争

二組に分れて圓陣を作ります。そして、それぐの場所にチヨークで圓を描きます。兎の競争を致しますと、合圖と共に、一人が兩足をそろへてビヨーンとびながら自分の組の圓の廻りを右廻り致し、自分の場所の右側の人の肩をポンとたたきます。たかれた人が次に出るを云ふ風にして、競争の済んだ者は右隣の人の圓の中に入つてしゃがんで待つ事に致しますと、まごつかないで、うまく競争

が進行致します。縦に列んでするよりも樂に出來ます。これは、兎だけの競争、龜だけの競争、兩方一緒の競争ミ云ふ様に色々變へて致しましたら面白う御座います。其の他の動物競争に致しましても結果ミ致しましてはミぶか四つ這ひになるかで同じ事で御座います。

鬼ごっこする者よつといて

三、四年前に戸倉先生におしへて頂いたもので御座います。極簡單な歌詞に付けられた遊びで御座います。

始め一曲の終りまでめい／＼一人で好きな方向にスキップで行き、二曲目の始めに、お友達を探して手をくみ、スキップでミこへでも參ります。二曲目が終りますミ、

二人で足でジャンケンポンを致します。この足でするのが大層面白さうで御座います。

ジャンケンボンでミんで兩足を揃へるミ石。兩足を横に開くミ紙。縦に開くミ鉄になります。負けた人は鬼になつて、相手を捉へます。つかまつたら腰掛けて待つて居て、(皆が捉へられてから)又一等始めつから繰り返して致します。

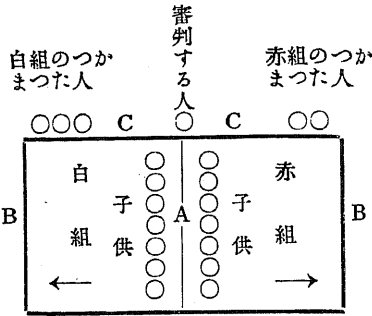
おにごっこ

♩ = 120 元氣よく

オニゴツコ スルモノ ヨツトイデ

オニゴツコ スルモノ ヨツトイデ

これは何ミ名をつけてよろしいかわかりませんが圖の様に適當に線を引き赤白の組に子供を分けて、A線を境に向ひ合ひます。(子供に赤帽白帽をかぶせれば尙はつきり致しませう。) 審判する人(先



事。皆捉へられたら負けになります。

椅子とリ

多分御存じの古くからある遊びで御座いませうが、雨の日等、室内で遊びますのに喜ばれる事で御座います。マーチだけの知つてゐるお唱歌を弾いて音が止むと大

急ぎで椅子に腰かけます。椅子は圓形に並べ子供の數より一つ少く致して置きます。腰掛けられなかつた人は、椅子を一つ持つて、外へ出ます。最後の一人はごなた？

* * *

古くから傳はつて参りましたあそびの中にも、随分今も尙よろこばれて、しきりに致して居るものが御座います。それ等も自由遊びの中に適當に導びけば、随分面白いか存じます。

花いちもんめ—多分御存じで御座いませう。

これを誰れかゝ始めますと、「僕も入れて」「私も」ミ方々から子供が集まつて参ります。一組全部、多い時には他の組の子供までがお仲間に入つて参ります。

先日、あまり面白さうに池の組の方がしていらつしやいましたので、つひつり込まれておぢちゃん(倉橋先生もお仲間にお入りになり、菊池先生も、私も、山の組も、森の組もお仲間に入れて頂きました。一時間位も續きました。誰も彼も汗びつしよりで御座いました。

あらためて御紹介するまでもないミは存じますが、ミに

かく古くからの遊びにして、今も面白く遊んで居りますま
まに記させて頂きます。

二組に分れて向ひ合ひます。一組宛手をつなぎながら、

A組「ふるさつまごめて花いちもんめ」

でA組は三足歩いて四歩目は片足で、ピョンピョンで元へか
へる。

B組「ふるさつまごめて花いちもんめ」

A組と同じ動作をする。

A組はみんなご相談の上、B組の誰かを指名して、

A組「花子さんがごりたい花いちもんめ」

以下動作は同じ。

B組「二郎さんがごりたい花いちもんめ」

そこで指名された二人は中央に出て来て、ひつぱりつこを
する。全身の力をこめて、他の子供も自分の組が勝つ様
に、力瘤を入れて應援致します。A組の二郎さんが勝ちま
した。

A組「勝つてうれしい花いちもんめ」。

B組「負けてくやしい花いちもんめ」

A組「ふるさつまごめて花いちもんめ」

.....

ご同じ事を繰り返へします。

この外、やつぱりお庭なんかでよく致して居ります鬼ご
つこも、随分色々形を變へて遊ばれて居ります。

丸鬼、ため鬼、しやがみ鬼、陣なし鬼、影ふみ等。

時にはこんなあそびに、いつもおまなく引込んでゐる
子供等を連れ出して、なるべくみんなで遊ぶ様に仕向けて
見るのも如何で御座いませう。

* * * * *

つまらない例ばかりを記しましてお恥しう御座います
が、或る時にはこんな事を致して、先生も一緒に子供にな
つて、汗びつしよになるのもご存じまして。

内氣な子、體の弱々しい子等、お友達もあまり遊べな
い子供でも、先生が先づ其の子供等と一緒にこれらの遊び
の仲間に入りますと、つい面白さにつり込まれて、珍らし
くも赤く色ついた頬をかゞやかして居るのを見ます。

何かの御参考になれば幸せに存じます。